

A traditional Japanese garden scene featuring a pond in the foreground, a grassy area with several large, dark rocks, and a dense background of lush green pine trees. The sky is bright with some clouds. The entire scene is framed by a white, hand-drawn style border.

六義園



六義園

駒込（東京）にある都立庭園
柳沢吉保（綱吉の側用人）の下屋敷
「大名庭園」池と山、回遊性
《北村季吟》が深く関わる

今日お話ししたいこと

1)脳内AR空間としての六義園



2)日本文化と脳内AR



3)俯瞰とウォークスルー



1)脳内AR空間としての六義園



【基本的な楽しみ方】

- ①石柱（八十八→現在確認し得るものは十六）を見つける
- ②その石柱に関連する和歌などが浮かぶ（浮かべる）
- ③すると脳内ARが発動し（発動させ）、
現実の景色に脳内の景色が重なったり（重ねたり）、
※音が聞こえたり、香りがしたり、
皮膚で何かを感じたり等々...
能の謡が出てきたり（思い出したり）、
和歌が浮かんだり（作ったり）する



1) 脳内AR空間としての六義園



《入口》

遊芸門

ゆうげいもん
ゆき(悠紀)のもん



1)脳内AR空間としての六義園



《入口》

遊芸門

道に志し、徳に拠り、仁に依り (志於道、拠於徳、依仁)
芸に遊ぶ (遊於芸) ※「道」・「歩行」に関する漢字

ゆうげいもん
ゆき(悠紀)のもん



1) 脳内AR空間としての六義園



《入口》

遊芸門

芸に遊ぶ：六芸（礼、楽、射、御、書、数）

リベラル・アーツ

（文法学・修辞学・論理学：算術・幾何・天文学・音楽）

ゆうげいもん
ゆき（悠紀）のもん



1)脳内AR空間としての六義園



《入口》

遊芸門

芸に遊ぶ：六芸
(遊於芸) リベラル・アーツ
トレーニングと遊び

ゆうげいもん
ゆき(悠紀)のもん



1) 脳内AR空間としての六義園



《入口》

遊芸門

芸に遊ぶ：六芸・・歌を詠む（歩きながら）
（遊於芸）リベラル・アーツ

ゆうげいもん
ゆき（悠紀）のもん



1)脳内AR空間としての六義園



《入口》

心泉

「心の泉はいにしへより深く、
詞の林は昔よりもしげし
(千載集・序)」

いま「心泉」は心泉亭という
茶室になっている。



1)脳内AR空間としての六義園



1) 脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》



1) 脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》



1)脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》

出汐湊

和歌の浦に

景勝地

和歌の聖地

1) 脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》

出汐湊

和歌の浦に



1)脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》

出汐湊

和歌の浦に
月の出汐の
さすままに

熟田津に
船乗りせむと
月待てば
潮もかなひぬ
今は漕ぎ出でな
(額田王)

1)脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》

出汐湊

和歌の浦に

月の出汐の

さすままに

よるなくたづの

こゑぞさびしき

(慈円)

1)脳内AR空間としての六義園



《出汐湊》

出汐湊

和歌の浦に
月の出汐の
さすままに

よるなくたづの
ころぞさびしき
(慈円)

居場所のなくなった鶴

子を思つて鳴く鶴

※能『隅田川』も
目の前の池も見て

1) 脳内AR空間としての六義園



《妹背山・玉笹》



1) 脳内AR空間としての六義園



《妹背山・玉笹》



1)脳内AR空間としての六義園



《妹背山・玉笹》



妹背山

中に生たる

玉ざさの

一夜のへだて

さもぞ露けき

(藤原信実)

1)脳内AR空間としての六義園



《指南岡》



1) 脳内AR空間としての六義園



《指南岡》

尋ね行く

和哥の浦ぢの

浜千鳥

あとあるかたに

道しるべせよ

(紀叔氏朝臣)



しるべの岡

和歌の浦に

名をとどめける

ゆるゑあらば

道しるべせよ

玉津島姫

|| 衣通姫尊

(紀叔文)

1)脳内AR空間としての六義園



《指南岡》

尋ね行く

和哥の浦ぢの

尋ね行く。

幻もがな伝にても。

魂の在所は其処としも。

波路を分けて行く船の

灰に見えし島山の。

草の仮寐の枕ゆふ。

常世の国に着きにけり

能『楊貴妃』

ワキ||方士



1)脳内AR空間としての六義園



《千鳥橋》



1) 脳内AR空間としての六義園



《千鳥橋》



1) 脳内AR空間としての六義園



《千鳥橋》



1)脳内AR空間としての六義園



《千鳥橋》

「橋を渡る」

能の橋がかり

|| 異界への通路

千鳥足で（微醺？）

千鳥の声を聞きながら

能の謡を謡いながら



千鳥のはし

1)脳内AR空間としての六義園



《尋芳徑》

尋芳徑

花尋（と）ふ徑

芳野 吉野

和歌山から奈良へワープ

吉野 桜の名所

西行の庵室の桜

百千鳥。
囀る春は物毎に。
あらたまりゆく日数経て。
頃も弥生の空なれや。
やよ止まりて花の友。
知るも知らぬも押し並めて。
誰も花なる心かな。

能『西行桜』



1)脳内AR空間としての六義園



《下折峯》

下折峯

吉野山

去年の枝折の
道かへて



しほりのみね

まだ見ぬかたの
花を尋ねん

(西行法師)

1) 脳内AR空間としての六義園



《吟華亭》



1)脳内AR空間としての六義園



峯花園(みねのはなぞの)

三吉野の

峯の花園風吹けば

ふもとに曇る

春の夜の月

(常磐井入道前太政大臣)

み吉野の

高嶺の

桜散りにけり

嵐も白き

春のあけぼの

(後鳥羽院)

1)脳内AR空間としての六義園



木枯峯(こがらしのみね)

秋の夜を

吹上の峯の

木枯に

よこ雲しらぬ

山の端の月

(家隆)

消えわびぬ

うつろふ人の

秋の色に

身をこがらしの

森の下露

(定家)

1)脳内AR空間としての六義園



雲香梅(うんかうばい)

谷風の

ふき上げにたてる

梅の花

天津そらなる

雲や匂はん

(定家)

梅の花

匂ひを移す

袖の上に

軒漏る月の

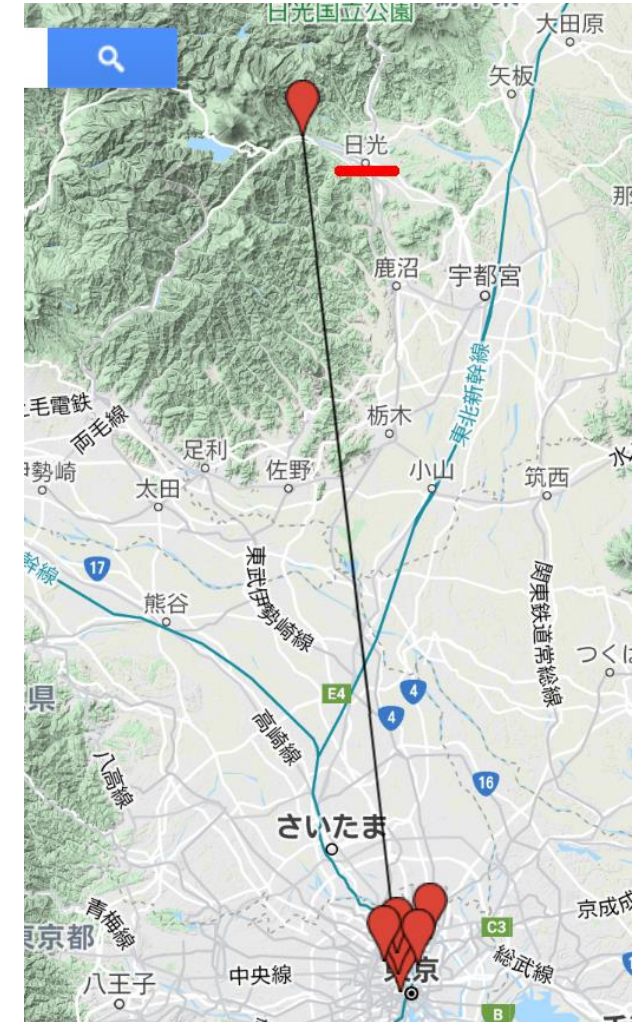
影ぞ争ふ

(定家)

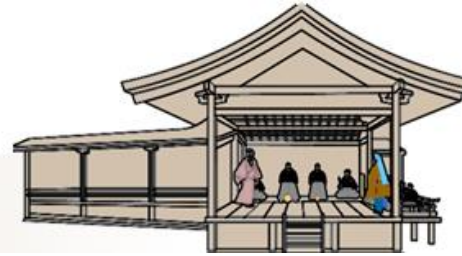
1) 脳内AR空間としての六義園



《藤代峠》

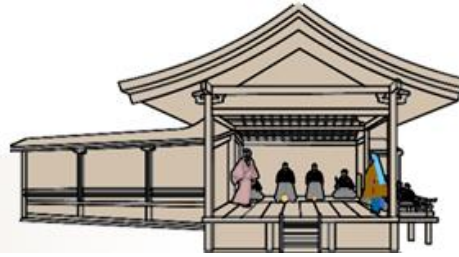


2) 日本文化と脳内AR

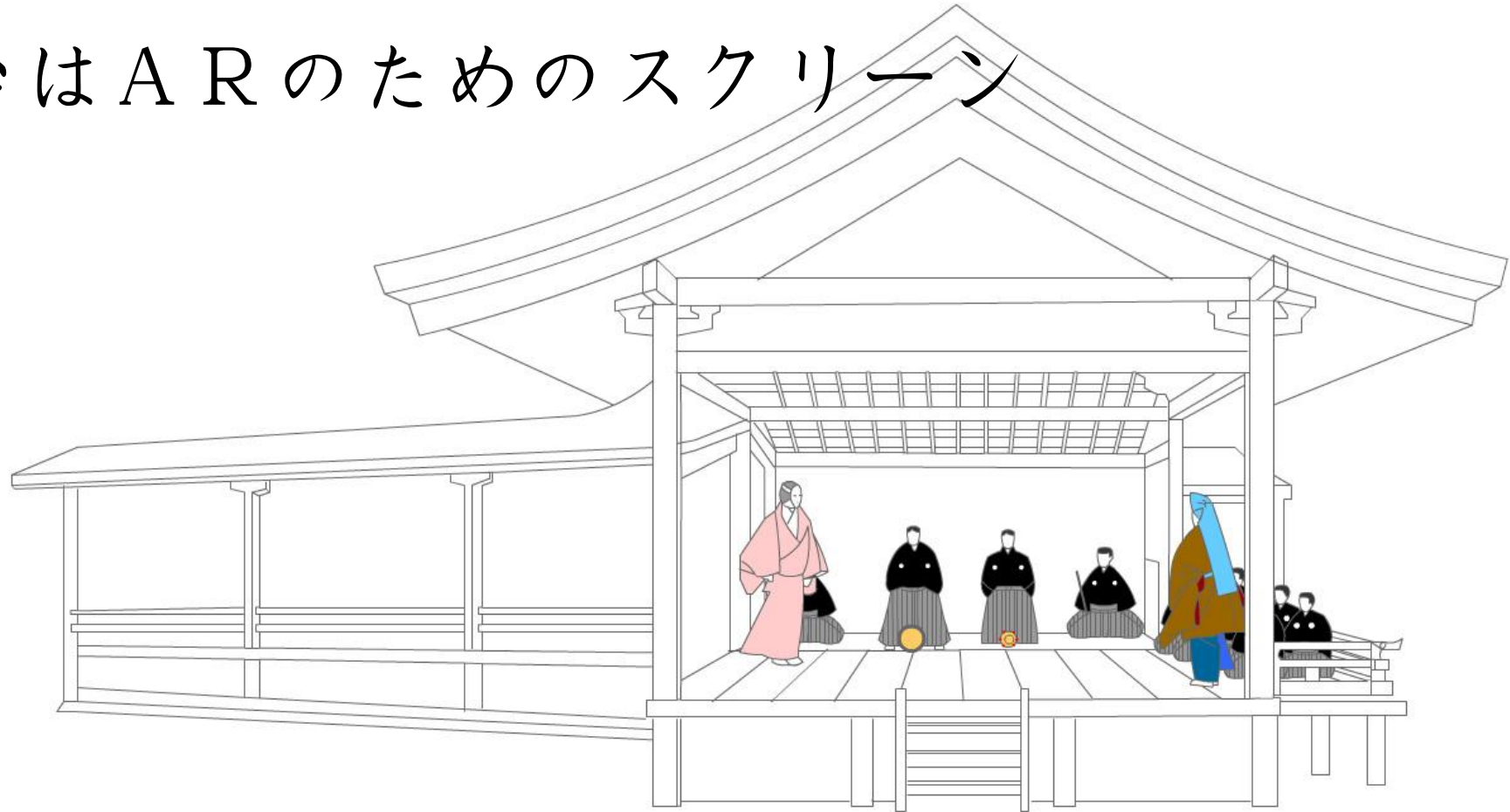


- 世界中の人に脳内ARはある
- 無文字文化だった日本はそれが顕著に残った
- 字（ジ）や絵（エ）に訓はない
- 脳内ARで暗算ができる日本人の子ども
- 能舞台や枯山水の庭はARのためのスクリーン

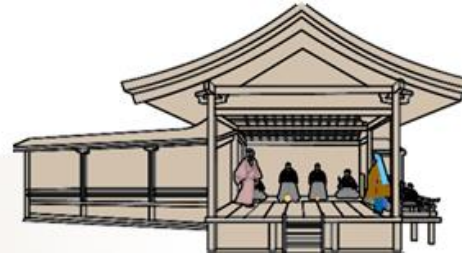
2) 日本文化と脳内AR



- 能舞台はARのためのスクリーン



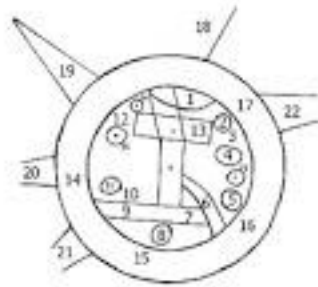
2) 日本文化と脳内AR



- 枯山水もARのためのスクリーン



3) 俯瞰とウォークスルー



bàd city wall, rampart, fortification

國(国)

お釈迦様の四門出遊

【くに】: 大地の意味

3) 俯瞰とウォークスルー



ヴェルサイユ宮殿の庭



3) 俯瞰とウォークスルー



ヴィランドリー城の庭



3) 俯瞰とウォークスルー



3) 俯瞰とウォークスルー



六義園絵巻

3) 俯瞰とウォークスルー



3) 俯瞰とウォークスルー



3) 俯瞰とウォークスルー



鳥瞰的な庭：上から見た姿を想像しながら歩く

ウォークスルー的な庭



3) 俯瞰とウォークスルー



鳥瞰的な庭：上から見た姿を想像しながら歩く

ウォークスルー的な庭：歩きながら、さまざまな変化する景色を楽しみ、また自分でも想像(創造)してゆく。



3) 俯瞰とウォークスルー



鳥瞰的な庭

ウォークスルー的な庭→「従属節」のない言語

「従属節」のない言語によるプログラム言語の可能性

A traditional Japanese garden scene featuring a pond in the foreground, a grassy area with several large, dark rocks, and a dense background of lush green pine trees. The scene is framed by a white border.

おわり